



没後20年 先輩 司馬遼太郎さんの業績を偲ぶ 第19回 大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会を開催

6月18日、梅田のサンケイホールブリーゼで2016年度「大阪大学司馬遼太郎記念学術講演会」が開催されました。大阪大学外国語学部の前身である大阪外事専門学校(蒙古科)の卒業生である国民的作家、司馬遼太郎さんの業績をしのび、その思いを引き継ぐことを目指したこの講演会も、今年で19回を迎えました。没後20年にあたる今年の講演会のテーマは、「いま語る司馬遼太郎」。例年とは少し違った趣向が凝らされた講演会となりました。

冒頭『竜馬がゆく』からの一節を総合司会の小川真由さんが朗読した後、西尾総長が、故郷飛騨についての『街道をゆく』の描写に感銘を受けたことにふれながら、主催者を代表して挨拶。その後を受けてNHK大型企画開発センターのチーフプロデューサー、谷口雅一さんが登壇しました。谷口さんは「映像で見る司馬遼太郎—テレビの現場から」と題して、「シルクロード」や「日本史探訪」、「太郎の国の物語」など、NHKの番組に登場した司馬さんの姿や、「街道をゆく」の映像をスクリーンに映しながら、その背景や特徴を解説。天性の語り手であった司馬さんが、テレビの表現の歴史に与えた大きな影響を語りました。

次に演壇に立ったのは、国際日本文化研究センター教授の井上章一さん。専門的著作のほか『京都ざらい』などの関西文化論でも知られる井上さんは、「司馬遼太郎と関西—国民作家の視点」と題して、今まであまり語られてこなかった関西と関東という視点から、司馬さんの作品にアプローチ。司馬さんは、鎌倉幕府の成立を歴史の分岐点としてとらえる関東史観に立っていたのではないかと、とする井上さんは、司馬さんにはもう少し関西の方を向いてもらいたかった、切ないですねえ、と軽妙な語り口で会場を沸かせました。

次にビデオメッセージで登場したのは、司馬さんと交遊の深かったドナルド・キーンさん。司馬さんに「懐かしい人」とよばれた理由は、私が古典に親しんだ伝統的な知識人だったということでしょう、と語るキーンさんは、事実だけの歴史はつまらない、人間が何を考え、どう行動したか、司馬さんは、それを想像力で蘇らせるのに実に巧みだった、と長年の交遊を振り返りました。

休憩をはさんで、ノンフィクション作家の後藤正治さん、産経新聞の石野伸子編集委員が井上さんとの対談に加わり、司馬さんの作品について、ざっくばらんに語り合いました。後藤さんは、司馬さんはおかしみのある人、そして武士といっても「美しい武士」を、さらに「がめつい大阪」はお嫌いだったが、山形蟠桃などなにわの学者・文化人はお好きだったのでは、と興味深い視点を提供されました。

今回の講演会も、司馬ファンでぎっしり満員。没後20年を経てなお司馬さんの人気が高いことを感じさせました。司馬さん御自身の映像を久しぶりに見、懐かしい「シルクロード」のオープニングも見られて、涙ぐんでしまった、と話す参加者もいました。

(文／言語文化研究科 教授 岡田 新)





バンカラの記憶

～旧制大高・浪高から阪大へ～

「バンカラ」と聞いて何を連想しますか？

実は、数十年前の豊中キャンパスにも「バンカラ」な若者たちが闊歩していました。

100年程前にできた旧制高等学校では、西洋かぶれで見かけを気取った「ハイカラ」に対し、一見粗放ですが見かけにこだわらず精神性を高める「バンカラ」(蜚カラ)を良しとする学生文化が生まれます。身なりは下駄ばき、黒いマントを羽織った「弊衣破帽」という姿でした。

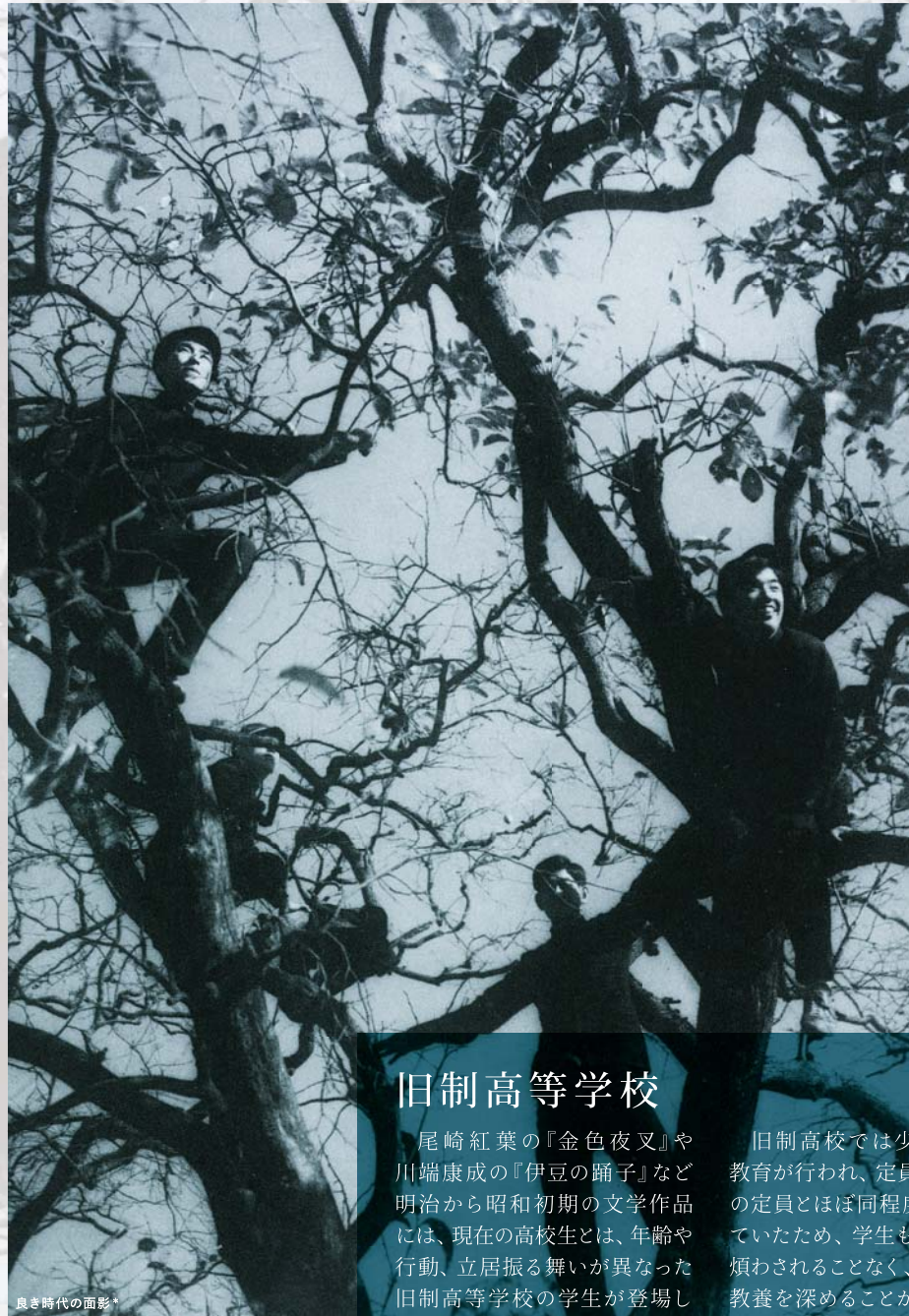
大阪には大阪高等学校と浪速高等学校があり、戦後1950年に大阪大学と統合、一般教養部として総合大学に重要な教養教育の役割を担います。

この両校からは、ノーベル賞受賞者、企業家、作家、声優など実に様々な分野で卒業生が活躍(7ページで卒業生の一部を紹介)。

こうした偉大な先輩方を多数輩出した大阪高等学校と浪速高等学校とは、一体どのような所だったのでしょうか？2016年7月上旬まで総合学術博物館特別展で展示されていた内容をもとに、当時の若者たちを振り返ってみましょう。

(文／企画部広報課 監修／総合学術博物館 准教授 宮久保 圭祐)

※特集内で用いている資料は『旧制浪速高等学校創立70年記念誌 待兼山 青春の軌跡』* 『写真集 大阪大学の五十年』** から引用しています。



旧制高等学校

尾崎紅葉の『金色夜叉』や川端康成の『伊豆の踊子』など明治から昭和初期の文学作品には、現在の高校生とは、年齢や行動、立居振る舞いが異なった旧制高等学校の学生が登場します。

旧制高等学校は、当時、国のリーダーを養成する教育機関として各地に設立された帝国大学に進む、前段階の高等普通教育機関(実質的に大学予備教育)として整備されました。

旧制高校では少人数による教育が行われ、定員が帝国大学の定員とほぼ同程度に抑えられていたため、学生も受験競争に煩わされることなく、自由に学び、教養を深めることができました。大学で必要になる外国語教育も重視されています。校友会の活動や寄宿寮での共同生活を通じて、学生の自主的な活動が盛んに行われ、各校独特の旧制高校文化を作りだしました。

大阪の高等教育機関

1889(明治22)年、官立の洋学校であった舎密局の流れをくむ第三高等中学校が大阪から京都に移転し、帝国大学も京都に設立されました。そのため大阪は日本を代表する大都市でありながら、高等普通教育の空白地となっていました。しかし大阪には、江戸時代の懷徳堂、適塾に見られるように、官に頼らず民の力で教育をする気風がありました。

明治大正期には実学を学ぶ多くの専門学校が設立され、それは後の大阪帝国大学の母体となったほか、今日の大学へ発展しています。1918(大正7)年の教育制度改革を機に高等学校が拡充され、大阪でも高等教育機関を望む声が高まります。

	1873(明治6)年 大阪府病院教授局(大阪府立医学校、現在の大阪大学医学部) 1880(明治13)年 大阪商業講習所(市立大阪高等商業学校、現在の大阪市立大学) 1886(明治19)年 関西法律学校(現在の関西大学) 1888(明治21)年 大阪府立農学校(浪速大学、現在の大阪府立大学) 1896(明治29)年 大阪工業学校(現在の大阪大学工学部) 1921(大正10)年 大阪外国語学校(大阪外国語大学、現在の大阪大学外国語学部)
--	--

大阪高等学校、浪速高等学校の誕生

大阪府市は40万円で土地を購入、国に寄付し1921(大正10)年に官立の大阪高等学校が設立されました。さらに大阪に高等学校一つでは不足として、更なる新設を計画しました。

大阪府立高等医学校は校長 佐田愛彦の医育統一論の理念の元、帝国大学と

同水準の医学教育を達成するため予科を設立していました。良好な教育環境の実現のために郊外に土地を求め、1919(大正8)年に豊能郡石橋待兼山に府立大阪医科大学(1915に改称)予科を移設したのが大阪大学豊中キャンパスの原点です。

1918(大正7)年の大学令を受け1919(大正8)年には正規の大学、大阪医科大学に昇格しました。そこでは高等学校の卒業生を受け入れられるので、予科の併設は不要となりました。大阪府は予科の資産を活用し1926(大正15)年に大阪府立で7年制の浪速高等学校を設立しました。予科の土地の半分を浪高の校地とし、予科を段階的に縮小、職員も浪高に移動させました。



	大阪高等学校の概要	浪速高等学校の概要
設置	1921(大正10)年11月8日 勅令第432号により設置が決定。文科甲類・乙類、理科甲類・乙類・丙類の5学級	1925(大正14)年11月20日 通常府会におき可決 1926(大正15)年3月19日 文部省告示第154号により認可 尋常科2学級、高等科 文科甲類・乙類、理科甲類・乙類の4学級。
校地／用地	北畠顕家墓所に近い東成郡天王寺村(現在の大阪阿倍野区)の10487坪(約35000㎡)を、大阪府市が40万円で購入して国に寄附した。校地は狭かったが、初代校長・野田義夫の「学校は社会と離隔してはならないからだ」の言葉通り、都市部に校地を求め、現在のあべの筋(旧熊野街道)に接して、鉄筋コンクリート3階建ての校舎を建設する。	豊能郡桜井谷村柴原32ノ1 19500坪(約64500㎡) 「校舎はフリースタイル近世式、鉄骨コンクリートで、ほととぎすの名所なる阪急石橋付近の待兼山に登立し、峽水をたたえた池に臨んでいるだけに高等学校では風景海内一と折紙がついている。」
校章	校章デザインは、大高の絵画講師になる多賀谷健吉の手になる。同僚の教授は、初代校長の野田が常に説いた『速大の抱負・高遠の理想』を「大高の2字に象徴的に組み合わせ、王者の色、紫の七宝の台をローレルでくるんだ校章」と証言する。	校歌に「高等学校『浪速』を名としたいだく徽章も浪こそかけ」と歌われる。浪高生は自らを銀浪児と呼ぶ。
愛称	帝陵 帝塚山、帝塚台の地名による。寮生の同人誌もこの名称。「陵」は丘を意味し、旧制高校の愛称に共通に使われる。	待陵(たいりょう) 待兼山の地名による。同窓会誌の名称も同じ。
対校戦	挑戦表明のあった松江高等学校との対校試合を行うことを生徒大会で決議した。創立翌年の野球部対校試合を皮切りに、庭球、(陸上)競技、水泳の各競技が行われた。	甲南戦 関西の七年生高校である甲南高等学校との試合。
特徴	都会的なスマートな学校と評される。フランス語を第一外国語とする理科丙類は大高と東京高校にしかない。戦後に文科丙類も創設。戦後には女性の学生が1名入学した。	尋常科は小学校の成績優秀者が集まり、「ぼっちゃん学校」といわれることも。旧制高校には珍しい父兄会も活動していた。 初代校長 三浦菊太郎「西の学習院を目指す。」 第二代校長 那須川良 就任式の訓示「文科のLはいわゆるリテラチャーのLではない、リパティアーのLである。理科のSはサイエンスのSではなくて、ソリダリティのSである。」

※特集内で用いている資料は『旧制浪速高等学校創立70年記念誌 待兼山 青春の軌跡』* 『写真集 大阪大学の五十年』** から引用しています。

旧制高等学校の 終焉と大阪大学 一般教養部の設立

戦後の制度改革で旧制高等学校には、新制大学になるか、新制高校になるかの選択肢がありましたが、多くは新制大学で必要になった一般教養教育を担うため、新制大学に取り込まれ、国立の大阪高等学校は大阪大学への合流が決まりました。

けれども府立であった浪速高等学校では問題は複雑であり、府には専門学校を統合し、府立浪速大学を創設する構想もありました。しかし卒業生の多くが大阪大学に進学していた浪高内では、大阪大学への合流を願って教員、生徒それぞれが決議していました。阪大側でも、今村荒男第5代総長は、文系学部を設立するには浪速高等学校を包括することが必要と考え、大阪府知事赤間文三と交渉の結果、府の浪速高校と国の大阪工業専門学校が、土地・建物・資産を交換することで決着しました。ただし、浪高所有の貴重な書籍類は、新設の浪速大学に必要として府に残され、今も大阪府立大学に保存されています。

1948(昭和23)年に入学した最後の入学生は、入学1年で退校になり新制大学の入学試験を受けることになりました。1950(昭和25)年に大阪高等学校、浪速高等学校は最後の卒業生を送り出します。卒業生総数は5201名と3578名。両校の土地、設備はそれぞれ大阪大学南高、大阪大学北高として引き継がれました。不便さの解消のために、南高は1960(昭和35)年に閉鎖され、跡地には阪南団地が建設。その地には「青春の像」(現在は、大高の森に移設)が建てられました。

大高・浪高に 私たちは 何を思うか？

右表のように大高・浪高の卒業生は、実に多方面で活躍しています。何故これほどまでに活躍している方が多いのか、それは単に優秀な人材が集まったからというだけではないのかもしれませんが。幅広く教養を身に着けた優秀な人材が一時でも寄宿寮等で生活を共にし、深く交流を持ったからなのかもしれません。教育はいつの時代も重要な社会的課題です。先人が苦心されてきたよう

に、これからも時代に即した大阪大学の教育をわたしたちは考えていかなくてはなりません。大阪大学の教養教育の礎になった大高・浪高は、時代は違えど、その課題に一つの答えを示してくれています。



多方面で活躍する大高・浪高の卒業生

藤澤 桓夫	作家	大阪高等学校 第2回文科甲類
中山 正善	宗教家／ 天理教第二代真柱	大阪高等学校 第2回文科乙類
安井 琢磨	経済学者	大阪高等学校 第4回文科乙類
釜洞 醇太郎	医学者／ 第9代大阪大学総長	大阪高等学校 第6回理科甲類
福井 謙一	化学者／ ノーベル化学賞受賞	大阪高等学校 第14回理科乙類
早石 修	生化学者	大阪高等学校 第15回理科乙類
金森 順次郎	物理学者／ 第13代大阪大学総長	大阪高等学校 第26回理科1組
豊島 久真男	医学者	大阪高等学校 第26回理科4組
開高 健	作家	大阪高等学校 第27回文科甲類 ※新制大学以降で 1年のみ在籍

満田 久輝	農学者	浪速高等学校 第5回理科乙類
山村 雄一	医学者／ 第11代大阪大学総長	浪速高等学校 第9回理科乙類
森嶋 通夫	経済学者	浪速高等学校 第14回文科乙類
佐治 敬三	サントリー元会長	浪速高等学校 第11回理科乙類
熊谷 信昭	電磁工学／ 第12代大阪大学総長	浪速高等学校 第20回理科2組
岸 昌	元大阪府知事	浪速高等学校 第12回文科乙類
花房 秀三郎	医学者	浪速高等学校 第21回理科3組

この他にも、声優の永井一郎さんや、「マチカネ」の冠名をつけた競走馬の馬主でもあった企業家の細川益男さんなど、分野を問わず多くの卒業生を輩出しています。

現在のキャンパスにみる大高・浪高



浪高庭園(浪高創立50年を記念し、1975年に築庭された。)



帽子とマントを象った記念歌碑(1960年に旧浪高本館前に完成。浪高庭園内に移設。)

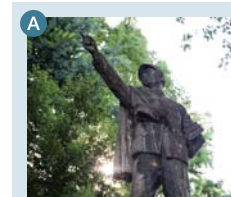
F 大高の森(大高創立50周年記念事業で、1972年に大阪大学に寄贈された。大高創立100周年に掘り出すべくどこかにタイムカプセルが埋められているらしい)

G 明道館(浪高の錬成道場 兼 合宿所として1943年に設置。当時の建物はないが、学生サークル棟の名称として今も残る。)

H 大阪大学会館(旧浪高本館。講堂は、当時のアールデコ調を再現。登録文化財)

I 大阪高等学校全寮歌歌碑(1991年に創立70周年記念事業で大高の森の中に設立。)

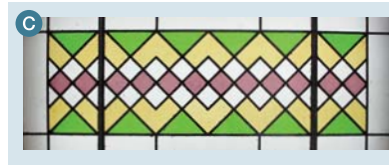
J 中山池(浪高当時は叫ヶ池とよばれ、水泳部の練習場所にもなっていた)



青春の像(大阪高等学校生を偲ぶ像。1960年の大阪大学南高閉鎖時に、記念して阪南団地に設置された。現在は、理学研究科正面の大高の森に移設されている。)



「友よ我らぞ光よと」像(浪速高等学校生を偲ぶ像。設立時に「西の学習院を目指す」という初代校長の方針による、ボタンのない海軍式の制服が特徴)



浪速高等学校尋常科の入口のステンドグラス(全学教育実験棟IIに保存されている)

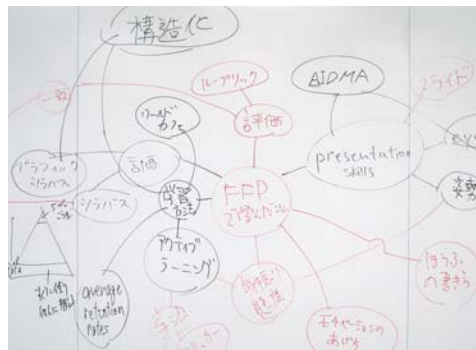
※この内容は、全教員に年2回配付される大阪大学ファカルティ・ディベロップメント プログラムガイドに詳しく紹介されています。是非ご覧ください。



大学教員への教育支援として、具体的には、授業の計画、実施、リフレクションというコースデザインサイクルのステップごとに、様々なプログラムを用意しています。教員自身の課題に応じて、最適なプログラムを選ぶことができ、吹田と豊中キャンパスで開催されています。また、各種プログラムは対面型のセミナーやワークショップだけではなく、いつでもどこでも学べるeラーニング教材でも用意されており、さらには、個別にコンサルティングサービスも提供されています。

- 新しく阪大にいられて授業を持つことになった方
- 何年か経験されてさらに授業を深化させたい方
- 培った技を学内に広げたり、若手と一緒に最新の授業手法に挑戦したいベテランの方

上記のどんな年代の先生方にもご利用いただく



苦手箇所をプログラムマップで確認！

コースデザインと実施サイクル

1 授業計画
授業の組み立てを学ぶプログラム

2 教材作成
教材作成の方法を学ぶプログラム

3 教育方法
様々な教育方法を学ぶプログラム

4 学習評価
学習の評価方法を学ぶプログラム

	コース実施前	コース実施前	コース実施中	コース実施後
セミナー	1回目の授業で必ずやるべきこと 新◎ 中 ◎職△ 	ノートPCでお手軽ビデオ教材を作ってみませんか？ 新◎ 中◎ 職△ 	90分でマスター！学生の受講態度が変わる、授業をキャリア教育化する10の秘訣 新◎ 中○ 職△ 導入に使える、コミュニケーションゲームのアラカルト 新◎ 中◎ 職○ ストーリーベースのワークショップデザイン 新◎ 中◎ 職◎ 	パフォーマンス評価入門 新◎ 中◎ 職△ 学習評価の基本 新◎ 中◎ 職△ 学生のリフレクションを促す方法 新◎ 中◎ 職◎ 
	コースデザインワークショップ ※まとまった時間でコースデザインを包括的に学べます。1泊2日の宿泊型、3日間の通い型、4日間の通い型（英語）の3種類があります。			
	eラーニング教材			

新=新任教員 中=中堅・リーダー教員 職=職員 ◎=最適 ○=おすすめ △=参考
※上記の内容は、2016年4月～9月に開催予定の内容です。※講義の概要や開催時期など詳しくはウェブサイトまたはプログラムガイドをご覧ください。

教育のことで困ったら
コンサルティングサービス

教育や指導に関してお困りのことはありませんか？複数の内容を組み合わせてお申込みいただく事も可能です。随時受け付け中。下記ウェブサイトからお気軽にご連絡ください。

◎アクティブラーニング型授業の取り入れ方
学生の能動的な学びを促すための方法やペア
ワーク・グループワークを取り入れた授業に
関する情報提供をします。またアクティブラ
ーニング型授業に関する相談に応じます。

役員室だより

from: マイ ハンダイ

阪大の“いま”に今すぐアクセス！
>> <https://my.osaka-u.ac.jp/>
マイハンダイに掲載中の役員室だよりから
一部抜粋しています。



Pick up!

阪大発の新たな産学連携！ 中外製薬株式会社と包括連携契約を締結



5月19日、大阪大学と中外製薬株式会社（以下、中外製薬）は、免疫学フロンティア研究センター（以下、IFReC）と中外製薬による先端的な免疫学研究活動に関わる包括連携契約を締結しました。

この包括連携契約により、中外製薬からの10年間にわたる年間10億円の拠出を通じて、IFReCでは、研究者独自の発想に基づいた基礎研究に専念できる学術環境が維持され、免疫学に関する先端的研究の成果の社会還元を目指すことができます。

また、IFReCが有する世界最先端の免疫学研究と中外製薬が独自の技術で培った創薬研究のノウハウが組み合わせられることで、基礎研究から臨床応用研究までの障壁が解消され、これまでにない免疫学分野における革新的新薬の創製が期待されます。

Pick up!

大学院教育に関する 部局訪問を開始

研究型総合大学としての大阪大学にとって、優れた博士人材の育成は重要な使命です。そのため、博士課程教育リーディングプログラムに応募するなど、大学院教育の改革に取り組んできました。しかし、博士課程の定員充足率の低下が続く、修士課程学生の学力が低下しているのではといった声が聞こえ始めています。

そこで、各研究科の大学院教育の現状を把握し、問題点と改善策を検討していくことを目的に、研究科訪問を開始しています。まずは文系の研究科を訪問することから始めました。研究科の専門性に応じて、大学院教育はさまざまであることがよく理解できました。またどの研究科も、修士課程の学生の学力低下に悩み、博士課程進学者の減少に苦しんでいることがわかりました。定員充足率の観点からは、文系研究科は問題が無いように見えるのですが、実は在籍者数で計算しているからでした。つまり、留年して在籍している大学院生が多いために、定員を充足しているように見えていたのです。今後は、理工系の研究科訪問も開始します。理工系の研究科の場合には、博士課程の定員充足率の低さは深刻です。

今回の研究科訪問による部局長等と執行部の意見交換は、各研究科の抱えている課題を共有し、手を携えて解決策を探るという方向性を生むことができた点で、たいへん有意義だったと感じています。大学院教育の充実策は待たなしの課題であり、全学の英知を集めて取り組みたいと考えています。また、卓越大学院構想への応募もこの課題に資するものを中心に検討していきます。

Pick up!

障がいのある教職員からの 相談等に対応するための 「相談窓口」を設置

「障害者の雇用の促進等に関する法律」（障害者雇用促進法）が改正され、雇用の分野における障がい者に対する差別の禁止、合理的配慮の提供義務規定等が本年4月1日より施行されました。

これにより、事業主には、①障がいを理由として意図的に不利益に取扱うことの禁止（差別の禁止）、②障がいのある者が職場で勤務するに当たっての支障となっている事情を改善するための措置の提供（合理的配慮の提供）、③障がいのある者からの相談に対応するための体制の整備（相談体制の整備）、④障がいのある者が合理的配慮に関し相談したことを理由とする不利益な取扱いの禁止（不利益取扱いの禁止）が義務づけられました。

本学においても、法の趣旨に則り、障がいのある教職員が職場で支障となっている事情を相談できるように、さらには、その支障を解消するための措置を要望できるように、各部局等及び総務部人事課（統括）に「相談窓口」を設置しました。

Open Education

- ☑ COデザインセンター発足（教室）
- ☑ 共通教育・教養教育の改革に取り組んでいます（教室）

Open Research

- ☑ 様々な学内研究支援プログラムを実施しています（研究推進室）
- ☑ STOP!研究費不正（不正使用防止室）
不正使用が起きない、起こさない環境づくりに取り組んでいます



Open Innovation

- ☑ 健康医療分野における産学連携クロスイノベーションへの取り組みを開始しました（産学連携室）
- ☑ 大阪大学の出資事業初となる4大学ベンチャーキャピタル間の協調投資を実行！（産学連携室）

Open Community

- ☑ 豊中キャンパスにコンビニ誘致を進めています（教室）
- ☑ インド財務大臣アルン・ジャイトリー氏特別講演会を実施（グローバル連携室）
- ☑ 大阪大学21世紀懐徳堂だよりVol27「夏休みは大阪大学へ行こう」発行！（男女協働推進・社会学連携室）
- ☑ 医療法上の臨床研究中核病院の承認を受けました（病院）

Open Governance

- ☑ 大学機関別認証評価を公表しました（総合計画室）
- ☑ 国立大学法人等施設整備5か年計画が策定されました（総合計画室）
- ☑ 大阪大学経営企画オフィスを設置しました（総合計画室）
- ☑ 財政構造改革に向けた取り組みを進めています（財務室）
- ☑ 男女協働推進センター設立記念シンポジウムを開催（男女協働推進・社会学連携室）
- ☑ 平成28年度女性教員在職比率・平成27年度採用比率を公表しました（男女協働推進・社会学連携室）
- ☑ 女性職員キャリアデザインセミナーを開催（男女協働推進・社会学連携室）
- ☑ 平成28年度大阪大学新任教員（研究員）研修を実施（人事労務室）

受賞・表彰

産学連携学会において大阪大学の取組み（共同研究講座制度）が表彰されました！

産学連携学会は、産学連携学の確立等を目的として産学官の学識経験者や実務家等が集まり活動している学会です。6月16日（木）に開催された産学連携学会第14回大会において、大阪大学の産学連携の取組みが「業績賞」に表彰されました。

これは、平成18年度より導入した共同研究講座制度が、これまでの共同研究の在り方を大きく変えるものであること、平成23年度からは共同研究講座制度を拡大させた協働研究所制度を導入し、共同研究のさらなる発展を図っていること、および、共同研究講座シンポジウムの開催や産学連携学会での発表等を通じて制度の普及に努めてきたこと等が高く評価されたものです。

他のモデルとなる先端的産学連携活動を行い、業績を上げた個人・団体が対象となる。同賞を大学として受賞したのは、本学が初めてのケースとなります。

今後も、産学共創の促進に向け、共同研究講座等の活用にとどまらず、他大学等の先駆けとなるような制度設計を進めます。



▲産学連携学会業績賞の表彰状

【産学連携室】

受賞等	受賞者	所属
第33回渋沢・クローデル賞 特別賞	小門 穂 特任助教(常勤)	医学系研究科
第57回日本神経学会学術大会 優秀口演賞（基礎）	武内 敏秀 寄附講座講師	医学系研究科
平成28年度日本歯科保存学会 学術賞	峯 篤史 助教	歯学研究科
平成27年度土木学会 技術開発賞	鎌田 敏郎 教授	工学研究科
平成27年度日本材料学会 学術奨励賞	寺澤 広基 助教	工学研究科
平成28年度日本船舶海洋工学会賞 論文賞	飯島 一博 准教授	工学研究科
ASME (American Society of Mechanical Engineers; アメリカ機械学会) 主催 OMAE国際会議 (International Conference on Ocean Offshore & Arctic Engineering; 海洋極地工学国際会議) 「Best Paper Award」	飯島 一博 准教授	工学研究科
The 26th International Offshore and Polar Engineering Conference 「Jin S. Chung Award」	柏木 正 教授	工学研究科
The 26th International Offshore and Polar Engineering Conference 「Best Paper Award」	柏木 正 教授 飯田 隆人 さん 三木 真理子 さん	工学研究科 工学研究科 (D) 工学研究科 (M)
トムソン・ロイター 「第4回リサーチフロンティアワード」	茶谷 直人 教授 鷹巣 守 准教授	工学研究科 工学研究科
日本機械学会関西支部 第91期定時総会講演会 日本機械学会若手優秀講演フェロー賞	川野 聡恭 教授 土井 謙太郎 准教授 名倉 諒 さん	基礎工学研究科 基礎工学研究科 基礎工学研究科 (D)
日本機械学会学生員 卒業研究発表講演会 Best Presentation Award	川野 聡恭 教授 土井 謙太郎 准教授 白井 宏樹 さん	基礎工学研究科 基礎工学研究科 基礎工学部卒
The VUVX Conference Award (VUVX2016)	関山 明 教授	基礎工学研究科
RIBF Users Group Thesis Awards for 2016	蓑茂 工将 特任助教(常勤)	核物理研究センター

※受賞や表彰を受けられた場合は、部局広報担当係を通じて広報課までお知らせください。

人事

新総長特命補佐

発令日	氏名	現職	主な特命事項
2016.6.15	三阪 佳弘	高等司法研究科・教授	教育改革関係

新教授

発令日	氏名	所属	前職
2016.5.1	三好 恵真子	人間科学研究科 人間科学専攻人間行動学講座	本学准教授
2016.5.1	祝迫 達郎	経済学研究科 経済学専攻応用経済講座	本学准教授
2016.5.1	池田 学	医学系研究科 医学専攻情報統合医学講座	熊本大学
2016.5.1	山下 仁司	高等教育・入試研究開発センター	教育的高大接続研究所
2016.7.1	岡田 眞里子	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門	理化学研究所
2016.7.1	原田 慶恵	蛋白質研究所 蛋白質化学研究部門	京都大学
2016.7.1	菊地 則義	産学連携本部	特許庁

訃報

教養部	島津 忠夫 名誉教授	平成28年4月16日 逝去
工学部	永井 利一 名誉教授	平成28年4月27日 逝去
人間科学部	茅野 良男 名誉教授	平成28年7月3日 逝去

アジア開発銀行 総裁講演会を開催



5月24日(火)に大阪大学会館にて、今年度新たに始まった、「大阪大学東アジアセンター国際開発セミナーシリーズ」「大阪大学グローバル・リーダース・レクチャー・シリーズ」第1回目として、中尾武彦アジア開発銀行(ADB)総裁の講演会を開催しました。

星野俊也理事・副学長からの開会の挨拶のあと、第一部は、『アジア経済の展望とアジア開発銀行の役割』と題した中尾総裁の講演、第二部は中尾総裁と大谷順子東アジアセンター長の対談というプログラムで行われました。

第二部では、参加した学生との間で活発な質疑応答も行われ、中尾総裁よりこれからの国際化社会に出る学生たちに向けてエールが送られました。

洪庵忌 ～適塾のタベ～を開催



緒方洪庵の命日(旧暦文久3年6月10日)にあわせて適塾で行われる法要で、大阪大学の様々な分野の講義を適塾できくことで、先人の学びに思いを馳せます。

今年は6月6日(月)に開催され、江川温名誉教授による「白い「癩者」たち-中近世の南西フランスにおける虚構の病と差別-」と、免疫学フロンティア研究センターの審良静男教授による「自然免疫:最近の考え方」の講義が行われました。

総合学術博物館

2016年夏期特集展覧会「科学で楽しむ怪異考 妖怪古生物展」

会場：大阪大学総合学術博物館待兼山修学館(入場無料)
会期：2016年7月23日(土)～2016年8月27日(土)*日曜りと祝日は休館
開館時間 10:30～17:00(入館は16:30まで)

主催：大阪大学総合学術博物館

共催：豊中市・豊中市教育委員会

協力：大阪大学21世紀懐徳堂、大阪市立自然史博物館、太田記念美術館、株式会社サイエンスモンスター、京都大学霊長類研究所、滋賀県立琵琶湖博物館、信州新町化石博物館、戸隠地質化石博物館、西浦青雅堂、三重県総合博物館、瑞浪市化石博物館

大阪大学総合学術博物館では、7月23日(土)から8月27日(土)まで豊中市・豊中市教育委員会との共催で2016年夏期特集展覧会「科学で楽しむ怪異考 妖怪古生物展」を開催します。

この展覧会は、古典や伝承に登場する神や妖怪といった非日常的な存在と「古生物学」という学問を結びつけ、空想と科学の垣根を超えた科学の楽しさを提供します。近畿圏をはじめ日本や海外から集められた約100点の貴重な化石と骨格標本を公開し、最新の研究成果とともに展示します。また、浮世絵や絵巻物などに描かれた妖怪と見比べながら、実在した絶滅生物と空想生物の謎に迫ります。



平成28年度大阪大学 秋季卒業式・大学院学位記 授与式



日程：2016年9月23日(金)
会場：コンベンションセンター MOホール

平成28年度 大阪大学秋季入学式



日程：2016年10月3日(月)
会場：コンベンションセンター

詳細は、本学公式ウェブページ(www.osaka-u.ac.jp)「イベント情報」および「セミナー・シンポジウム情報」をご覧ください。

夏のはじまり!大阪大学夏まつり2016を開催



7月9日(土)、箕面キャンパスで第37回大阪大学夏まつりが開催されました。

大阪外国語大学時代から続く恒例の夏の一大イベントで、今年も天気はあいにくの梅雨空となりましたが、おなじみの「民族衣装コレクション」など国際色豊かに開催されました。

夕暮れには盆踊りも開催され、卒業生や近隣の方、地域の子どもたちも多く参加し大いに賑わいました。

大阪大学の医学教育・研究・診療を支援する

一般財団法人 恵済団

大阪大学医学部附属病院内の売店(ローソン)、
薬店、食堂、サブウェイを運営しています。

阪 印

信頼と実績

昭和44年創業以来、「お客様の気持ちを第一に」を社是として歩んでまいりました。
培ってきた信頼と実績が私たちの誇りです。

〒553-0004 大阪市福島区玉川3-6-4
TEL:06-6443-0936 FAX:06-6443-1684 E-mail:bandopv@skyblue.ocn.ne.jp

阪東印刷紙器工業所